

では、目に見えるような変化は出ていない。日本は先進国で唯一エイズウイルス（HIV）感染者が増え続ける国とされており、関係者らは年齢層を絞るなど、工夫を凝らした啓発活動を続けている。

（溝田幸弘）

## 神戸のエイズ国際会議から4カ月

「あんたも持って帰った動に賛同し、募金箱とともに二年半ほど前から置いてらう？」

「えー、私はいいわ。そんな相手おらんし」

「何かあったときのためらうっているという。」

「どん底」は創業約五十年の老舗。落ち着いた雰囲気求めて足を運ぶ常連客は、若者から年配者まで幅広い。「若い人には、

発用のコンドームに手を伸ばすOシらの姿が「最近はずの話をすること」と鈴木

経営者の鈴木和香子さんは語る。

性感染症予防啓発ボランティア団体「BASE K OBE」（神戸市内）の活

しなから覚えた知識を、家

## 中高年層の患者増加 「無関係」と思わずに

世界七十カ国から約二千七百人が集まったエイズ国際会議は新聞やテレビで連日報道され、閉会後はエイズに対する理解の拡大が期待された。しかし、兵庫県内の今年四月から九月末までのエイズ検査、相談件数はそれぞれ千三百五十七件、千八十七件と、いずれも平年並みにとどまっている。

一方、県内のHIV感染者数とエイズ患者数は十月二日現在で計百七十八人。四月から十四人増で、少しずつ、しかし確実に増え続けている。

関係者が特に懸念しているのが、中高年層のエイズ患者の増加だ。若年層に比べてエイズについての知識が乏しく、発症するまで感

染に気づかないケースが多かけを作った」という。

◆ ◆ ◆

一方、繁内さんは「どん

底」などのクラブには、若

者だけでなく中高年層への

啓発を期待する。「昔はエ

イズという病気のものが

なかつたから、関心を持ち

なかつたから、関心を持ち

なかつたから、関心を持ち

なかつたから、関心を持ち

# 伸びない検査・相談件数

エイズ国際会議の後、「B

底」などのクラブには、若